

## 令和元年東日本台風（第 1 9 号）

### ①避難者数

- ・ 3 3, 1 5 0 人

### ②避難行動要支援者の状況（令和 2 年 1 2 月末時点）

- ・ 4 4, 8 1 8 人（うち、 5, 4 9 8 人は要援護者避難支援制度登録者）

### 【課題】

令和元年東日本台風（第 1 9 号）では、避難支援制度登録者に対する支援組織による災害情報の伝達、安否確認及び避難支援等が多くの地域で実施されないなど、災害時において自ら避難することが困難な方（避難行動要支援者）の対策が必要。

## 市民の生命、身体及び財産を災害から保護するには

### ①市民の防災意識の向上

- ・ 災害時避難行動マイタイムラインの普及啓発

### ②地域を取り巻く関係団体との連携

- ・ 災害時避難行動マイタイムラインの理解促進
- ・ 平時の備え、災害時における関係者間の役割・連携

## 取組のポイント

- ①強み（福祉・介護専門職団体等との連携・協力体制等）を活かした個別避難計画作成モデルの構築
  - ・普及啓発活動による市民の防災意識の醸成
  - ・庁内防災・福祉部門関係者及び福祉・介護専門職団体等との継続的な意見交換による連携体制の構築
- ②被災事業所の参画による実効性ある個別避難計画の作成
  - ・心身の状況、環境等以外の要因によるハイリスク者の選定
  - ・経験から得た知見・スキルを活かしたプロセスの理論化
- ③行動・実践を通じた個別避難計画の作成プロセス等の構築
  - ・既存業務工程の洗い出し等による品質の維持・向上及びコストの削減

## 令和 3 年度の取組

- ①検討会の設置
  - ・庁内防災・福祉部門関係者、地域包括支援センター、ケアマネジャー等福祉関係者
- ②災害種別、警戒・想定区域別等に応じたハイリスク者の判断基準案の策定
  - ・ハイリスク者：立ち退き避難に支援を要する高齢者
  - ・ミドルリスク者：立ち退き避難に一定の時間を要する高齢者
  - ・ローリスク者：自ら立ち退き避難又は事前に親戚・知人宅に避難可能な高齢者
- ③個別避難計画の作成プロセスの合理化、様式案の策定
  - ・作成プロセスの合理化：サービス担当者会議の要点（第 4 表）に様式を追加
    - ：ミドルリスク者以下の作成については、マイタイムラインを活用
  - ・様式案：統一様式を基本としつつ、第 4 表に追加した簡易様式案を策定

## 取組課題

- ・災害種別毎の立ち退き避難者数及び避難支援を要する高齢者数の把握
- ・心身やハザード、居住等の実態に応じた点数化による優先順位づけ
- ・分野別連携、防災力向上の取組強化
- ・情報通信技術の活用
- ・個別避難計画の作成その他に係る報酬の支払い等の仕組みづくり
- ・事故その他の取扱い

## 今後の取組

### ①令和4年度

- ・庁内外関係者による検討会設置
- ・民間シンクタンク等への委託による実証検証

### ②令和5年度～

- ・個別避難計画作成の標準的な取組フローの公表・作成

## ①準備

- ・庁内外における検討体制の整備
- ・関係団体への参加依頼



## ②検討会

- ・マイルストーンの共有
- ・既存業務工程の洗い出し、個別避難計画作成の標準的な取組フロー（様式含む。）の検討
- ・ハイリスク者の判断基準の検討



## ③実証テスト

- ・標準取組フローに基づく個別避難計画作成



## ④問題解決

- ・実証テスト結果により把握した問題の整理、構造化、分析、結果の統合、見直し



## ⑤説明・公表

- ・個別避難計画作成の標準的な取組フロー等の公表
- ・取組フロー等の説明、中間目標地点、節目のポイント地点の共有